

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600022		
法人名	有限会社 ふくすけ		
事業所名	グループホーム ふくすけ		
所在地	大分県臼杵市大字戸室字長谷1135番地の1		
自己評価作成日	平成27年11月25日	評価結果市町村受理日	平成28年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、利用者様が地域で主人公になるために認知症ケアの専門職として支えよう。レクレーション楽しく、リハビリ充実、地域とつながろうをスローガンのもと利用者様が、これまでの関係性が薄くなってしまいうことが無いように、いろいろな方向からの関係性の持続を目指してケアを行ってまいりました。ご本人を理解しようと努力し、色々な行動や発言に至る原因を職員1人1人が考えてケアに結び付けて、利用者様が笑顔で過ごしていただけるように努力致しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

重度化しても口から食べる事の大切さを学び、本人の力で食べることのできる食事づくりをしている。また、転倒のリスクや自力での立ち上がりなど配慮してトイレの高さを調節するなど自立を目指した支援を行っている。利用者の中にはたばこを吸われる方もいるが、無理な禁煙ではなく希望にそって喫煙室を設けるなどできるだけ個々の希望に配慮している。スローガンを職員で話し合い、専門職として地域で生きる認知症ケアを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、申し送りの際、出勤全職員で理念を復唱し、また1年ごとのスローガンを設け、具体的に話し合い実践に結び付けるように取り組んでいる	基本理念を毎日意識付けし、その日のケアに活かしている。スローガンについては職員で話し合い今年は「利用者様が地域で主人公になるために、認知症の専門職として支えよう」と実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々地域の方々と挨拶を交わしながら、ボランティアの施設訪問や、夏祭りの参加等と通じてより良い交流が行われるように努めている	近くの保育園との交流や誕生日会にはボランティアの訪問もあり地域とつながりが出来ている。地域の中で頼られる場所となりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	全職員が研修に参加し、自らのレベルアップに努力し、地域の会議に参加し、実践から得たことを発言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のケアや行事の取り組みを報告相談し意見を頂いている。ご家族様の参加も少しずつ増えてきて、意見を頂いている	家族への参加呼びかけも4カ月に1回行い徐々に増やせるよう試みている。夏祭りについても会議で話し合い、地域を巻き込んでいく。防災や行事、支援についても話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を始め、夏祭り等の行事に参加頂いたり、不明なことは担当者に電話、メール、または直接伺ったりして連携を取っている。包括支援センター主催の実務者会議、地域ケア会議に参加し、情報収集、情報後見を行っている。	包括支援センターが近く、何時でも気軽に相談できる関係である。臼杵市役所の各担当者ともマイナンバーや調査の相談ができていく。市の福祉施策への意見など言いやすく、市から研修への呼びかけがありケアの向上に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	色々なリスクが発生する中、利用者様の生命の安全を優先し、施設の可能な限りの環境下でケアを行っている	リビングからウッドデッキに目田に出入りし外気に触れることができる、たばこが吸いたくなったら利用者には喫煙室を用意するなど配慮している。寝たきりの方にはベッドの高さを高くして外が見れるよう工夫している。職員は身体拘束や虐待の自己チェックで自覚を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の中話し合い、自己チェック表を作成し職員は管理者に提出し、管理者は個人面接を行い把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様には成年後見制度を利用されている方も居られる。学ぶ機会は持っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書、個人情報使用同意書に添って、時間を取って丁寧に説明している。事業所もケアに関する考え方や取り組み、運営推進会議の参加をお願いしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月担当職員が利用者様の日常の様子を手紙で知らせている。誕生日月にはご家族様に誕生日会参加のお誘いの手紙を認めている。運営推進会議には2回に1回のペースで家族代表に参加して頂いている	面会時に家族と職員で話してはいるが、時間的ゆとりがなく、家族から意見や要望が聞き出せていない。会議の参加も徐々に増やしている状況である。	家族とゆとりと話す時間や機会を設けて、意見や要望、思いを聞き、職員で話し合い、運営に反映することが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々、職員の要望や意見を聞くように心がけているが、不満や苦情を把握しきれていない可能性がある。運営者は1年に2回面談を行い、意見を聞く場を設けている	職員からは積極的な意見が出ており、環境や勤務体制、重度化に伴うケアの方法などの意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場、職員の状況を把握し、各職員の評価に努め、希望者には資格所得の支援に配慮している。また健康診断の実施や職員の心身の健康状態や心のケア(ストレスをためないように)に配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は外部研修の情報を収集し、全職員が受講出来るように計画を立て実行している。また受講した研修報告をケアカンファレンスで発表している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の見学や、地域の会議に参加し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用希望時は、必ず施設見学を実施していただく。入所前に御本人様と面会し出来る限り情報を集める。入所後は出来る限りの関わりと信頼を得て安定した生活に向けて努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いやこれまでの経緯について話を聞き、これからの対応について話を進めながら、御本人と共に関係性を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所前よりご本人やご家族と面会し心身の状態の把握に努めている。最善の生活が営めるよう他サービスへ繋げるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とたくさんの会話と関わりを持ち、思いを共感し、和やかで笑顔のある関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の近況状態や日々の暮らしの中での出来事を毎月の手紙や施設の新聞でお伝えし、施設の行事等にもご家族様の参加を呼びかけ利用者様と共に過ごせる時間が持てるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の住んでいた地域にドライブに出かけたり、知人や友人が面会に来られた時は交流が図れるように支援している	通院時に昔の街並みの残る懐かしい場所に立ち寄り、買い物や馴染みの食べ物を一緒に食べ共に楽しんでいる。また馴染みの行事や場所などの写真を貼って関係が継続できる工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の話を傾聴し、楽しく過ごせるように雰囲気作りに努めている。利用者同士がより良い関係性が続くように、職員が情報を共有し孤立せずに共に暮らしを楽しめるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院等へ移られサービスが終了した利用者様にも積極的に関わるようにし、必要に応じて情報提供を行い、安定した生活が送れるように支援を心がけ、ご家族にもお手伝い出来るように心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、関わりを持つ中で十分に会話を持ち、言葉や表情から察することで把握や、新たな発見に努めている。意思疎通が困難な方には御家族からお話を伺っている	利用者の家族から日常生活習慣や趣味などその人らしい情報を聞き取り、本人の日頃の動きや会話からも思いを把握して記録に残し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中での会話でご本人より新しい情報を聞くことが出来たことや、御家族が会話の中で思い出された内容記録し職員間で共有するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の1人1人の1日の生活リズムを理解し、日々の関わりの中でご本人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人は日々関わりの中で、ご家族様には面会時等で意見を伺い反映させるようにしている。毎月のケアカンファレンスで職員全員で話し合っている	家族より意見や希望を聞き取り、プラン作成をしている。ADLを中心に評価、毎月モニタリングをして会議で職員と話し合い、自分らしく生きることのできるプランの作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に身体的状況及び日々の暮らしの様子やご本人の言葉、エピソード等を記録しPC入力している。過去の情報が必要な時は随時閲覧可能な状態になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院は施設職員が付き添っている。またご本人の通院等必要な支援は柔軟に対応し、御本人やご家族の不安を減らすように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市役所、包括支援センター、民生委員、区長、近隣病院のMSWに参加していただくことで情報交換が出来、協力関係を築けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所しても居家で生活していた時と同じかかりつけ医に受診出来るように支援している。通院は施設職員が付き添っている	近くの病院をかかりつけ医としている方の入居が多く、継続して通院している。通院は職員が対応し、家族に連絡して情報を共有している。状態の変化によって相談できる医療連携が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師が不在の為、かかりつけ医のNsや同系列の施設看護師に対応を相談したり、指示を頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した場合、介護要約を作成し病院に情報提供を行っている。5～7日に1回は職員が見舞うようにし情報交換や相談に努めている。退院の目処がついた場合は早急に受け入れ態勢を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族と年に1回は面談し、緊急時の対応の説明や今後の方針を話し合い書面によって確認している	医療的な支援が必要になった時は専門機関を勧めている。重度化した方もぎりぎりまでホームで過ごすことを希望される方に対して、口から食事を続ける方法など職員が研修し支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しており、職員が取り扱えるように救命救急法等の講義を実施している、事故が起こった場合は応急対応し速やかに医療機関を受診出来るように配慮している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の協力元、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行っている。災害に備えて備品も用意している	火災・夜間想定・災害・津波など幅広く訓練を実施している。市と避難場所としての協定を結び、災害発生時は受け入れ予定である。事業所前の道路が交通量が多く火災発生時には二次災害が懸念される。	今後地域の方々にも災害時や火災発生時の訓練に参加して頂き、意見など聞かせていただくなど、ご近所の協力体制構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員1人1人が個人情報の取り扱いについては慎重に行っている。利用者様には安心してもらえるような声かけをするように心がけている	個人情報の保護に配慮しつつ、通信の発信の対応など関係者と話し合い配慮している。トイレ誘導では気持ちを察して尊重した声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせて声かけを行い、意思表示が困難な人は表情から読みとる等、出来る限り本人の自己決定を促すような支援が出来るように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、1人1人の体調や気持ちを尊重するように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を取ってから美容師に施設に来てもらいカットを行ってもらっている。ヘアカラーも出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付け等工夫して嫌いな物でも食べて頂くようにしている。利用者様の好物を伺い誕生日会のメニューに取り入れている。後片付けやお盆拭き等出来る方には手伝っていただいている	ホーム内で旬の食材や利用者の好みのものを、食べやすい形態で調理して、ほとんどの方が自力で食べている。口から食べることを重要視し、重度化した方にも食べやすい食事についてなど学習している。お盆拭きや台拭き等出来る事をしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎日チェックしている。水分摂取が困難な方にはお茶ゼリー等提供し水便確保を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に応じたケアを行い、口腔内の清潔保持を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録から時間や習慣を把握し、身体機能維持に努め、トイレ誘導を行い、トイレで排泄できるように努力している	トイレで排泄出来るよう、便座の高さを低めにして転倒のリスクを回避するなど工夫している。パターンも把握してサインも見逃さないよう誘導している。夜間はポータブルトイレの利用もあり、排便後はその都度処理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや食物繊維の多く取れる食材の使用や水分補給を心がけ、出来るだけ自然排便を促すように支援している。ご本人の身体状態に合わせて内服でコントロールする場合もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ利用者様の希望に合わせて入浴していただけるように支援している。入浴提供の時間については日中となっている	週2～3日、昼間に入浴している。重度化が進んでいる方には、両側から2人体制で支援できるよう工夫している。利用者の要望で同性介助もできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。夜間眠れない方は、転倒等事故に注意し巡視を行いながら見守っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更がある時は申し送りノートに記入し職員間で情報を共有する。利用者様が服薬しやすい方法を考え支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に出来そうな仕事をその度々に考えお願いしている。感謝の言葉を忘れずに伝えるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調、職員体制が整っている時は、極力戸外に出かけ気分転換を図れるように心がけている	ウッドデッキへ出て自由に外気を浴び、季節の移り変わりを眺めて楽しんでいる。事業所周辺を散歩したり、個別に通院時ドライブに出かけるなど本人の思いに寄り添っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者間のトラブルを防ぐ為、金銭は施設で管理し、必要な時は家族に連絡し本人の要望に応じている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に手紙を出したりしており、利用者様の希望により電話が出来るように支援体制を整えている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間は生活感と季節感に配慮した整理と装飾を心がけている。また利用者様の癒しの空間として水槽を設置している	季節の飾りつけや外庭をゆっくり眺め、すきな場所や椅子で過ごせる工夫がされている。また新聞をのんびりと読み、好きなことを個々に出来る空間で、ちぎり絵や塗り絵などの作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、リビングにソファを配置しまた畳の部屋を利用し、利用者様同士が気軽に会話ができるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みや、家族の写真、貼り絵を飾っている。花の好きな利用者は花を飾っている。持ち込みが無くても壁を飾ったりして居心地のよい空間作りに努めている	光が差し込み外の景色を眺めながらのんびりと過ごせ、好きな物を飾って居心地の良い居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の居室のネームプレートや各部屋が分かるような環境作りに努めている		